



社大生・卒業生集まれ！ 「ホームカミングデー交流会」の輪で 繋がりましょう

～実行委員会在学生代表企画～



「ホームカミングデー」は、卒業生をお招きし、大学祭などを楽しむとともに、
恩師や友人と再会する場としていただく交流イベントです。創立80周年を契
機として多くの同窓生が繋がり、母校悠久の未来に向かって一緒に歩みを
刻みましょう！

在校生の皆さん。同窓生の皆さん。
ぜひご家族お友だちとお越しください！

日本社会事業大学創立80周年 「社大の未来に、想いをつなぐ」

社大同窓会

同窓会 交流会イベントのプログラム概要

予告 “創立80周年記念 「ホームカミングデー交流会」を開催します”

2026年10月24日(土)

※大学第55回大学祭(社大祭)にて

2026
vol. 98

同窓会×大学
パートナーシップ推進

【FUKUSHI LINK80～現役生・卒業生・教員!みんなで集まれば社大イイじゃん～】

■イベントスケジュール

※詳細は、ゼミのグループライン・同窓会ホームページなどでもご案内します。(申込不要・参加費無料)

【記念式典】 13:00～14:15 大学講堂

プロローグ 日本社会事業大学の歩みスライドショー

開 会 社大行進曲

ステージ 学生出演団体 ダンスサークル“Nexus”他

校歌斉唱

【松窓寮生・OBの集い】 教学C棟教室

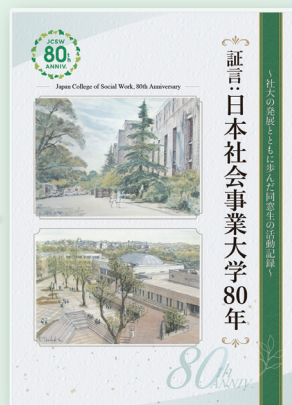
学生時代を過ごした学生寮『松窓寮』の寮生・OBによる交流会です
「社大祭開催時間中いつでもお越しください」

【参加者交流会】 16:00～18:00



現役生・卒業生・教員
で交流を深める企画
を用意してます！

参加者特典 記念式典の参加者に「証
言：日本社会事業大学80年～社大の発
展とともに歩んだ同窓生の活動記録～
A4判・130ページ」「記念クリアファ
イル」をプレゼント!!



2月23日～3月1日



西武池袋線「池袋駅」地下1階改札口通路



初のデジタルサイネージ広告で『社大のフランド認知度を高める』!!

液晶ディスプレイを使用し、社大の魅力をPRしました。

日本社会事業大学
学生生活向上委員会 主催
ちよっぱや
ちよっぱやとは何ぞい?
入学式前に新入生同士や先輩と仲良くになれる
最新入生に大好評のイベントです!!
ゲームや交流の内容は当日のお楽しみに!!

2026年3月19日 木曜日
10:00～10:50受付 (午前の部) 14:00～14:50受付 (午後の部)
11:00～午後の部開始! 15:00～午後の部開始!
～13:00フリータイム (昼食後) ～17:00フリータイム (昼食後) で
簡単なクイズやゲームを行います! 簡単なクイズやゲームを行います!
会場にはお楽しみ品も用意しています!!

QRコード

入学予定者向けイベント『ちよっぱや』

3月19日

／学生生活向上委員会

毎年3月、公認サークル『学生生活向上委員会 (旧生協組織部)』は、『ちよっぱや』と呼ばれる新入生向けのイベントを行っています。

学位授与式(卒業式)

3月13日

社大の卒業生で
あることを誇りに

社会福祉学部・大学院社会福祉学研究科・大学院福祉マネジメント研究科の卒業生・修了生が、日本社会事業大学での学びや経験を胸に巣立っていきました



同窓会から卒業証書・学位記ホルダーを贈呈しました



令和7年度
日本社会事業大学 卒業式

入学式

4月6日

明日の福祉の 担い手はここから

新入生に投票をお願いしました
みんなが社大で楽しみなことは?



令和8年度
日本社会事業大学 入学式



▶入学生の皆様へのメッセージカード◀

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。いよいよ大学生活のスタートです。大学では、これまでとは違った世界が待っています。今日は、この先のキャンパスライフを共に送る皆さんへ、私自身の経験も踏まえて3つのエールを送ります。

《その1》大学生活は、多くの自由にあふれています。日々の講義をどのように受講するのか、サークル活動への参加の仕方、友人と過ごす時間、何のアルバイトをするのか。。自由だからこそ、前向きな「やってみよう」の気持ちで経験をたくさん積んでほしいです。皆さんが得ることのできるどんな経験も、これからの皆さんの人間力を高めていくのだと思います。ですから、たとえ失敗だと思えることがあってもそれも思い出だと信じ、「やってみよう」という気持ちを心に灯し続けてください。

《その2》自由な選択には必ず責任が伴います。大学生活は自己責任の連続です。日々の講義やバイト、サークル活動、人間関係に至るまで、皆さんのいずれの選択も自由ではありますが、そこに対する責任感を持ち合わせるのが大学生たるものです。自己責任の遂行は社会生活において皆さん

「やってみよう」の気持ちで挑戦しよう!!

んの信頼につながります。一つ一つの物事に誠意を持って関わり、謙虚な姿勢でやってみることが責任を果たす第一歩になるのではないかと思います。《その3》人間は失敗する生き物です。自由な「やってみよう」に対しどれだけ責任感を持って取り組んでも、時には挫折し苦い思いをする、望んでいない道に踏み込み迷ってしまうこともあるでしょう。そんな時にはぜひ、周囲を一度見回してみてください。社大には皆さんの「やってみよう」を尊重してくれる人と環境があたたかく在ります。これから共に学びを深める同輩、サークルや寮生活で関わる先輩、そして私たちを教指導いてくださる教職員の方々など、たくさんの方がいます。ぜひこのあたたかな場所で多くの「やってみよう」を経験してください。

今年度、日本社会事業大学は創立80周年を迎えます。つまり、この学び舎には80年分の人のつながりと、紡いできた知識や価値、実践があるのです。そして私たちは、「また一年」と紡がれる一本の糸なのです。自分を大切に、自分らしく学び経験を積み、何かを結んだり繋いだりするその糸を、共に紡いでいけることを強く願っています。



4月6日 学生自治会代表 石井結梨

同窓会社会福祉セミナープロジェクト 開催報告

7月11日(土)

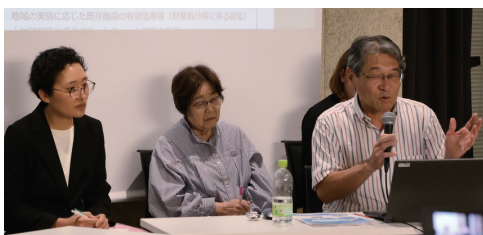
栃木セミナー

会場:ライトキューブ宇都宮

社会福祉セミナーin栃木
2030年に向けた福祉を取り巻く情勢と課題
一障がい者と地域社会の真の共生をめざしてー
開催 2026年7月11日(土) 13:30-16:30



<左から>助言:永島特任教授 進行:曾根直樹客員教授、すぎのこ会川田さん・松崎さん、パステル石橋さん、同愛会菊地さん



活動紹介・問題提起「障害者福祉活動実践の最前線から見えるもの」



基調講演/永島特任教授



栃木県支部主催交流会「ホテルニューイタヤ」



大学ボランティアサークル
オレンジクレヨン「私たちの
オレンジリボン運動」に
ついて」

同期会開催報告

3月6日

ルアール東郷
(大学原宿校舎跡地)

社大'73クラス会(学部17期)



参加者23名、卒業以来の参加者も多数。当時の写真、文集等の展示、懐かしい歌を歌おう～、近くのカフェに移動し、二次会…

(幹事:田中(伊東))



ロマンス坂を背にして



明治通りの歩道橋
(旧原宿校舎前)

11月24日

YRイベントホール(池袋)

ワンダーフォーゲル部 創立55周年記念パーティー

ワンゲル創立55周年を記念して、OB会主催でパーティー開催。参加者28名。創立メンバーから'90年代在学のメンバーが集まり、大盛り上がり。大先輩方ははしゃぎぶりがかわいかったです。(幹事:菊地)



4月15日

学部5期同期会 小石川後楽園・涵徳亭(文京区)



学部5期の同期会を、都立「小石川後楽園・涵徳亭」で開催しました。一昨年の同期会後、「今後、毎年、時期と会場を固定して開催する」と申し合わせたことに基づく企画でした。参加者は18名で、

昨年より2名減少、遠く沖縄からは、交通機関の大幅な遅延をのり超えての参加者も。集いは、恒例となっている永眠者を偲んでの黙祷(この1年で3名の同期生が永眠)。乾杯で始まり、大半の時間を会食をしながらの近況スピーチに費やしました。前回同様、出欠返信はがきに寄せられたメッセージ集も別途配布され、時間のある人は、引き続き同会場での二次会での交わりを深めました。▶幹事・石井喜代子、白井利明、常友陽子、並木信一、矢口富士夫、山本欣司(代表)、吉本昇。(並木信一記)

2月22日

高田馬場 歌声喫茶ともしび

うたごえサークル大空・OB、OG会



‘70～‘90年代のメンバーが、福岡、長野、山梨など全国から集い、当時交流のあった他大学メンバーも交え32名。学生時代にともに歌った歌を通じて旧交を温めました。母校80周年事業への協力呼びかけも。(幹事:小田中)

同窓会ホームページの“ご意見ご感想
フォーム”から送信がありました

私は今年101歳になりました、佐藤尚男と申します。敗戦後軍隊から帰り、本郷の自宅は消失し、これから何をしようかと考えていた折、社会事業学校の生徒募集のポスターを、原宿駅で見えて応募しました。

学校を卒業後公務員として長く勤務、その後日本赤十字社の血液センターにも勤務しました。社会福祉関連の事案をこなしてきましたが、学校で学んだことも数多く役立ちました。

百一歳 第一期生 後輩にエール

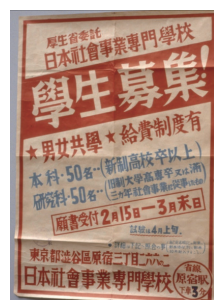
佐藤 尚男 日本社会事業専門学校 第1期生 1949年(昭和24年)卒業

リタイア後も長く民生委員を務め、地域社会に貢献できたと思っています。

同窓会報「社大同窓会」を拝見して皆様の活躍を嬉しく思い、つたない文章ではありますが一言申し上げたく思いました。

2025年2月16日 山梨県

(佐藤さんは投稿後、5月31日にお亡くなりになりました。101歳と5ヶ月でした。)



日本社会事業大学校歌誕生秘話

「孤独、敗残、途に哭き わが世 餓ひょうの野となれば 社会の福祉誰が任ぞ」

社大校歌の一節ですが、社大の建学の精神がここに現れていると思います。日本社会事業大学は、第二次世界大戦後1946年（昭和21）11月9日の創立ですが、大学校歌が誕生したのは、昭和25年に旧制の日本社会事業専門学校が新制度の日本社会事業短期大学になった時の頃でした。この校歌が出来た時の事情について、平成8年7月1日発行の日本社会事業大学報「たけおが第21号」に仲村優一名誉教授（元学長）が「社会事業大学校歌・由来記」を残しているのので、紹介する。

多くの学校で校歌が作られた背景等

大学や高校において校歌が盛んに作られるようになったのは大正期から昭和初期にかけてのことでした。「大学令」の公布により、多くの私立学校が「大学」へ昇格を果たす一方で、全国に旧制高校や商業・工業・医学を専門とした官立の旧制専門学校が次々と設立され、高等教育機関への進学率が高まったのもこの時期です。そのため、多



仲村優先生
(1947.10~1987.3)
ケースワーク。1973年
学長就任

大事な役割を果たした3人の人物

校歌の制定にあたって、決定的に大事な役割を果たされた人物が3人いる。木田徹郎（故人）、佐伯仁三郎（故人）、木田みさをの3人である。木田徹郎教授は、昭和24年（1949年）本学に迎えた方で学監という大学の実質的な責任者の職務を昭和42年まで勤められ、本学の教育研究体制の基礎を築かれた一大恩人である。1960年に出来た本学学内学会の初代会長であり、学内学会の木田賞は先生の名を記念して設けられたものである。

校歌作成の創案

ちょうど、旧制の日本社会専門学校が新制度の日本社会事業短期大学になった時（昭和25年）短大になった機会に校歌を作ろうではないかという話が

くの学校は、校歌の歌詞に学校の所在地やその風土の特色、さらには校風や理念を示す言葉を探り入れ、自校の存在を多くの人々にアピールしようとなりました。

【以下、「社会事業大学校歌・由来記」からの転記】

当時のことを書きとめた記録などないので、同僚だった名誉教授の五味百合子先生の助けも借りて、記憶を呼びもどしながら、あれこれのことを綴ってみた。



五味百合子先生
(1948.4~1981.3)
婦人問題論。1976年
同窓会再建初代同窓
会長

出て、私ども（教職員・学生）がそのこと

で相談したことは間違いない。さて、誰に作詞を頼み、誰に作曲してもらうかということになった時、当時の学校は財政的に極めて不如意であったし、同窓会も昭和23年にできたばかり（現在の同窓会は昭和51年に再建）で、まだ弱体で頼りにならなかったから世間的に有名な人に頼むというわけにはいかなかった。そんな状況下で、誰が言い出したのだったか、当時大学がその中にあった中央社会館（渋谷区原宿）に同居していた中央共同募金会に、歌人で国文学者の佐伯仁三郎という方が嘱託職員でおられること（五味先生も私も佐伯さんとは面識があった）を知り、佐伯さんをお願いしようということになったのだと思う。木田先生がそのあたりの折衝をして下さったのだと思うが、

作詞料なるものが払われたのかどうか。木田先生、佐伯さんも亡くなられた今となつては確かめようもない。ただ、後年何かの折に、佐伯さんを大学にお招きし、校歌をお聴かせした時に、佐伯さんが涙を流して喜ばれたということ、五味先生は覚えておられる。

※『現代人名情報辞典』（平凡社刊、1987年）によると、佐伯さんのお名前は「さえきじんざぶろう」1900年生まれで1974年没。歌人・国文学者で、窪田空穂に師事して『珊瑚礁』『国民文学』などに作品や評論を発表。相模女子大学教授、明星大学教授。1938年に歌集『群竹』を出す。

このように、佐伯さんは中央共募におられた頃、すでに一家をなす歌人だったのである。

木田先生のお嬢さんに作曲を依頼

ところで、大学校歌の作曲は「芸術大 学作曲科」となっているが、これはどういうことだったのだろうか。これも、私ども（五味・仲村）の記憶では、たまたま木田徹郎先生のお嬢さん（当時木田みさをさん、現在富永みさをさん、国立佐賀大学教育学部教授が東京芸術大学の作曲科に在籍しておられ、木田先生の発案でお嬢さんに作曲をしてもらい、それを個人でなく芸大作曲科の教室で作曲してもらったことになろうというところになったのではないと思う。

この点は、富永さんがはっきりとご自分の作曲によるものであると証言しておられるとのことなので、今後は表示法をかえなければならぬであろう。

戦後の社会福祉の歩みを噛みしめながら

大学校歌の受け止め方については、人によって様々であろうが、私個人としては、それが出来た最初の時から、これは、作詞・作曲ともに大変素晴らしい校歌だと思つたし、今もその思いは変わらない。校歌の最後の「社大、社大、つながるわれら」（短大の頃から、私たちは、いちばん端的な略称を「社大」として表していたことを、この校歌は物語っている。は、こういう思いを胸に秘めて代々木台（今は清瀬の杜）に集い学んでいるのだ、という気持ちで歌詞と曲が一体となつて実によく表れているように思うからである。この点では、社大の式典で2番までしか歌わないのは何となく物足りない。是非とも、4番まで、よく意味を噛み締めながら、声高らかに斉唱したいものである。

そんなことを思いながら、そして1番から4番までの歌詞を戦後50年の社会福祉の歩みと重ね合わせながら、校歌を噛みしめてみることも、社大50年の思いの一駒ということになるかもしれない。



日本社会事業短期大学校歌
一、空の淵を先立てて
都の霞、花照らう
丘も名をかし代々木台
伝説の泉、われ結んで
呼ぶや思案の露の声
二、孤独、敗残、途に哭き
わが世、餓ひょうの野となれば
社会の福祉誰が任ぞ
忘我の愛と智の灯
捧げん世紀をりけり
三、自由の鐘の鳴るとき
友愛の丘、月澄めり
河原の草、さすき世に
臨み遠くを夢つたり
われは社に結ぶなり
社大、社大、われら
四、焦土の果に涙の日は
再び見まじ喜歌の日
上なる平和を懐きて
行くは民主の道程に
社大、社大、われら

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

子どもたちに“福祉への関心を持ってもらうための居場所を目指して”

大学「子ども福祉図書館」

日本社会事業大学附属図書館（社会事業図書館）は、中央社会事業協会（現在の全国社会福祉協議会）が1934年（昭和9）に設置した「社会事業研究所図書室」の蔵書を引き継いで開設し、戦前・戦後の貴重な福祉関係資料を所蔵・公開している。現在

の蔵書数は約26万点。武蔵野の面影を残す雑木林を間近に、ガラス張りの明るい閲覧室は車いす用閲覧席を備え、1階に「子ども福祉図書館」が設置され、大型本や他言語の図書が所蔵されている。全国でも数少ない児童図書館について紹介する。

島根県立大学松江キャンパス 研究紀要Vol.62（2023）

大学付属の児童図書館は全国的に見ても数は少なく、2022年現在でその存在を把握しているのは、開設順に北海道武蔵女子短期大学、京都芸術大学、文教大学、鳴門教育大学、日本社会事業大学、山梨大学、聖徳大学、関西大学、島根県立大学、福島学院大学の10館である。

日本社会事業大学子ども福祉図書館設置の背景

子ども福祉図書館が設置されたのは、所蔵スペースの確保が必要となったために行われた1999年の図書館3階増築がきっかけだった。社会福祉の研究にとって貴重な戦前・戦後の図書資料を豊富に所蔵しており、学内だけでなく、学外からも利用されてきていることから、地域の子どもたちも対象にして何かできないかという声が出され、子どもに向けた図書館設置が決まった。そこには、子ども頃から読書を通して、ボランティアや介護だけではない幅広い福祉の分野に関心を持ってもらいたいという願いが込められていた。名称に「福祉」の2文字が入っているのは、このような経緯からであった。

幅広く揃えられた福祉に関する児童書

子ども向けの福祉関連の本が並ぶ書棚を見渡すと、「手話」「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」「介護の仕事・介護施設」「子どもの貧困」「難民」などのトピックが目に入ってくる。子ども向

けに書かれた福祉を理解する本や様々な障がいへの理解を深める本、ジェンダーフリーの絵本などもシリーズで完備され、さらに、子どもの将来の職業選択に役立つキャリアに関する本も充実している。他の子ども図書館ではあまり見かけない点字つき絵本や、L・L・ブックもある。L・L・ブックの「L・L」とは、スウェーデン語の「läst och letat」の略で、誰もが読書を楽しめるようにいろいろ工夫が施されたやさしくよみやすい本のことである。一見すると絵本のように見えるが、日本語が十分でない海外にルーツを持つ人、知的障害のある人、認知症の高齢者など、やさしく読める本を必要とする大人を対象に作られた本で、子どもは点字絵本やL・L・ブックを実際に手に取り、本の世界で取り組まれている福祉支援を体験できる。

多様な背景を持つ子どもへの眼差し

子ども福祉図書館には、「福祉」についての知識や理解を深める児童書だけでなく、地域の様々な背景を持つ子どもたちのために、福祉的な観点から所蔵されている本もある。例えば、外国籍の子どもたちが利用できるように、英語、中国語、韓国語、タガログ語の外国語絵本が揃えられている。日本の絵本とそれを複数の外国語に翻訳したものが数種類、また、図書館には珍しく、コミック本もシリーズで揃えられていて、地域にいろいろな事情を抱えた家庭の子どもがいることを考えて配架されている。子ども福祉図書館は、子どもの居場所づくりの一環としても位置づけられている。

日本社会事業大学子ども福祉図書館 児童書・絵本などが7,700冊以上！



子どもたちの福祉への理解を広めるとともに地域に開かれた大学をめざして、平成16年に児童書および絵本およそ5,000冊をもって図書館1階に子ども福祉図書館が開設された。利用者は、近隣に居住する子どもと保護者、近隣の保育園や幼稚園関係者である。平成26年度の来館者数は延べ3,155人である。平成26年からメイスン財団からの助成を得られるようになり、清瀬にも外国にルーツをもつ子どもが多くなってきている状況に鑑みてさまざまな言語で書かれた絵本を収集するとともに、シリーズ化された図書の収集に力を入れている。



■調査に協力した星川英輝さん（研究・図書館事務室長補佐）のコメント
「子ども福祉図書館は地域の子どもやその保護者のほか、保育園や近隣の小学校からも広く利用されてきましたが、コロナ禍以降は利用者が減少している現状です。これまで以上にPRしていくとともに、点字絵本やL・L・ブックの充実や図書館有志団体「読書マラソン委員会」とも連携して学生が利用者の子どもと関わる仕組みについても工夫していきたい」とこの調査に協力した研究・図書館事務室長補佐の星川英輝さんは言う。

星川さん
「子ども福祉図書館は地域の子どもやその保護者のほか、保育園や近隣の小学校からも広く利用されてきましたが、コロナ禍以降は利用者が減少している現状です。これまで以上にPRしていくとともに、点字絵本やL・L・ブックの充実や図書館有志団体「読書マラソン委員会」とも連携して学生が利用者の子どもと関わる仕組みについても工夫していきたい」とこの調査に協力した研究・図書館事務室長補佐の星川英輝さんは言う。

有志団体「読書マラソン委員会」 社大の図書館をより魅力的な場所にするために

平成22年～23年に文部科学省のGPに採択された「教養力を基盤にした『想像力×創造力』形成」の中で、図書館と協働した活動を通して学生の成長をめざして、読書マラソン推進委員会が発足された。推進委員になった学生は、4年間で100冊の読破をめざす読書マラソンの推進役として、普段の活動としては、テーマを決めた展示やオリジナルポップ（本の情報をポスターやカードにして伝える）や展示を作って本を紹介したり、選書ツアーを実施して学生の目線から図書館に蔵書する本を選んだりしている。学生の目線で収集された図書は、一般学生の関心と呼び、借り出される割合が高く、在校生の読書の推進に貢献するとともに、図書館に活力をもたらしている。また、

委員会の企画展示として、これまで「お勧め書籍を時間割に沿って並べます」「戦争×文学：夏の読書に」「秋の夜長に本を読もう展」「本の表紙かくしました展」を開催。最近では、オレンジリボン運動団体「オレンジクレヨン」とのコラボ企画「こどもを守る 未来を守る（児童虐待関連図書）」の展示がある。

現在のメンバーは1年6人、2年2人、3年2人の計10人。代表2年中村姫菜



「こどもを守る 未来を守る（児童虐待関連図書）」展示

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

同窓生が活躍する福祉現場の最前線から

～OB・OG応援メッセージ～

同窓会の『福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会』に参加いただいている

「清瀬育成園ひだまりの里きよせ」を訪問しました。

<https://www.ikuseikai-ky.or.jp/>



**障害者支援施設での
地域生活をより豊かに!**

2017年(平成29年)5月に開設。設置主体は社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会です。施設入所60名の多くは自閉症の方で、強い行動上の特性を有する方が生活されています。また、就労継続支援B型は特別支援学校の卒業生を中心にカフェ、パン工房、レタスの水耕栽培等を行っています。カフェは近隣の方の憩いの場として親しまれ、2種類の水耕レタスも好評を得ています。事業内容としては、短期入所相談支援事業も。所在地は清瀬市梅園3丁目。日本社会事業大学から徒歩10分の至近距離にあります。「ひだまりの里」という名前には清瀬という地域の中で、利用者一人ひとりをあたたかく包み込むひだまりのような場所でありたいという想いが込められています。

Q 皆さんのプロフィールをお聞かせください



下田 一紀さん 東京都出身、2003年卒。ゼミは大橋ゼミ、テニス部に所属。(当時はサークルではなく、部活でした。)自宅近くのラーメン屋でアルバイトをしていました。が、のちに入職のきっかけになる障害者施設で生活支援員のアルバイトも。高校のときの友人と、バンド活動もしていました。



細川 雄大さん 東京都出身、2016年卒。障害のある方の就労支援などに関心を持ち、2014年に東京経済大学経営学部卒業と同時に福祉援助学科へ3年次編入。他大学卒業後、社会福祉学部に所属。他学部からの編入で多くの単位取得が必要だったため、3年生のときは週6で通学をしていました。そのため、アルバイトやボランティアはほとんどできませんでした。が、卒業・実習ともに小田美季先生にご指導いただき、障害者福祉分野を中心に勉強してきました。



太田 勝吾さん 神奈川県横浜市出身、2025年卒。入職2年目。村田先生のゼミに入っており、学生自治会とボランティアサークルstepに所属していました。ボランティアでは、大学近くの小学校・中学校に行き、流しそうめんやフリーマーケットの手伝いをして、地域の方と関わりを持つて過ごしていました。また、寮の先輩に紹介された知的障害者のグループホームで4年間アルバイトをしていました。

Q 入職された理由や仕事の内容は?

下田さん もともと福祉に興味を持ったきっかけが、知的障害のある幼馴染みとの交流でした。先輩の紹介で通勤寮という就労している知的障害者の寮でアルバイトを経験したことで、改めて障害の分野で働きたいと考え、そのまま今の法人に入職しました。入職後は杉並区にある入所施設で生活支援員をしたのち、相談支援専門員として地域で暮らす方々の相談支援に取り組みできました。現在は現場を離れ、ひだまりの里きよせの施設長として施設の管理・運営業務を行っています。

太田さん 自分は大学入学してすぐに始めたグループホームでのアルバイトをきっかけに、知的障害の分野に興味を持つようになりました。そこで、ひだまりの里きよせにボランティアで伺った際に、職員さんが利用者さんの事を思う姿勢を見て、ここに就職したいと思いました。現在は、利用者さんの食事や入浴などの毎日の生活のサポートをしています。

細川さん ご利用者への支援を組み立てていくときは、固定観念や先入観にとらわれないようにできるだけ多くの職員の意見を聞きながら、進めていくようにしています。また、外部の研修などにもなるべく積極的に参加をするなどし、まずは「支援員としての成長」を意識しながら仕事をしています。日々の取り組みを通して、少しでもご利用者のQOLの向上に還元できたいれば、とてもうれしく思っています。

Q 仕事の魅力やこれからの目標など

細川さん 24時間365日の体制でご利用者の支援をしているため、日中・夜間のトータルで支援を組み立てられるところが、障害者支援施設の仕事の魅力だと思っています。また、さまざまなバックグラウンドを持った職員が在籍し、日々意見交換をすることで多くの刺激が得られています。目標としては、目の前のニーズだけでなく、お一人おひとりの地域生活を見据えた支援が展開できるように成長していきたいです。

太田さん ひだまりの里きよせは入所施設であり、利用者さんとしての生活の場なので、日中活動の支援のみでなく、居宅やリビングでのゆとりとした利用者さんの姿も見ることが出来ます。お互いに毎日顔を合わせ、時間を共にすることで、少しずつですが関係性を築けているような感覚があります。季節ごとのイベントを企画し、ユニット内でも季節を感じられる生活を提供するのが今の目標です。

Q 同窓会の『OB・OGとの交流会』に参加されてのご感想・意見をお聞かせください

細川さん いつも貴重な機会を設けていただき、ありがとうございます。毎年、現役の学生の方との様々な意見交換もできて、楽しい時間を過ごさせていただいています。今後も、知的障害のある方への支援や、育成会ひだまりの里の魅力を少しでも

も伝えられるように自分自身の経験を深めたいと思っています。近隣の施設ということもあり、連携も取りやすいかと思えますので、引き続きお力添えのほどよろしくお願い致します。

在校生への応援メッセージ!!

下田さん 失敗も大切な経験になります。自分の学生時代を思い出すと、失敗や後悔の連続です。ですが、失敗したことは、人の人生に深くかわる仕事に必要な想像力や柔軟性を養うのにとっても大事な経験だったと感じています。寄り道したら、時には立ち止まったりすることもあるかもしれませんが、きっと大丈夫です。学生の今しかできない経験を大切にしてください。

細川さん ネットワークづくりを大切にしてください。

ゼミの同期や編入生の仲間たちとは、今でも連絡を取り合い、お互いに近況を報告していますが、頑張っている仲間たちの話を聞くことで、とても励みになります。また、指導教員の小田先生には卒業後も気にかけてくださり、大変お世話になりました。一緒に学んだ仲間や先生たちとのつながりは、卒業して仕事をしていく上でも大きな財産になります。ぜひ、つながりを大切にしながら学生生活を楽しく頂ければと思います。

太田さん すべての経験を糧に

大学生活は長いようであつという間です。活力も時間もあふれる今だからこそ、実習やアルバイト以外にも積極的に足を運び、様々な経験をしておきたいです。無駄な経験なんてありません!すべての経験を糧に自分自身を高めていっていただければと思います。残りの大学生活、全力で楽しん

でください!



2026年度 幹事会報告

*6月幹事会は台風で中止。特例措置として書面による決議を実施

◆2026年度事業計画

創立80周年 母校のさらなる発展に向け取組を推進

『忘我の愛と智の灯』 日本社会事業大学同窓会の組織は、1976(昭和51)年4月に再建され、2026(令和8)年に50年(『母校は創立80周年』)を迎える。同窓会活動については、原宿年代に比べ清瀬年代の同窓生の参加が少ないといった“世代交代の問題”やコロナ等による活動への影響もいまだある中で、同窓会は、社会福祉の実践者として『忘我の愛と智の灯』の校歌の下結集し、今後も大学と連携して、社大教育と社会福祉実践をしっかりつないでいくことを大切に展開していく。

具体的には、在校生への実習現場の提供や就職支援、そのための卒業生のネットワークづくりをさらに推し進めるため、(1)同窓会活動のさらなる活性化、(2)卒業生と在校生との交流を通じた支援・同窓生間の交流の促進、(3)社会福祉セミナーの開催による大学とのパートナーシップの推進等々。同窓会活動の課題解決及び活性化に向けて取り組んでいく。

◀同窓会活動強化のためのキーワード▶

同窓会総登録数 17,836人 清瀬年代(入学・卒業生) 8,630人		会報送付数 8,000部 同窓会の取り組みを もっと身近に
就職・実習・卒研などの 在学生支援 福祉現場で活躍する OB・OGとの交流会 学内学生会・学生支援課とのコラボ企画		会費納入者(約1,200人) 同窓会基盤の強化 若い世代の参加推進
社会福祉セミナーの共催 同窓会 × 大学 パートナーシップ推進 創立80周年に向けた取組		大学広報活動との連携 母校教育力の向上を目指して リカレント教育の充実
修学困難学生に対する支援 五味基金の活用 職場体験応援制度の 活用・周知		

大学とのパートナーシップの推進/母校・在校生への支援

- (1) 社会福祉セミナーの共催 本セミナーの開催により、同窓会活動の活性化と母校の価値向上を図っていく。
【第1回】7月11日栃木セミナー 【第2回】8月22日宮城セミナー
- (2) 同窓生と在校生の交流会 「福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会」を6月日本社会事業大学×社会福祉学会とのコラボ企画で開催
- (3) 職場体験等応援制度の活用・周知 在校生の就職活動や支部セミナーへの交通費を助成
- (4) 同窓会「五味基金」による修学困難学生に対する奨学金支給
- (5) 同窓生とのつながりづくり 交流会参加団体訪問及び同窓会との協力関係構築
- (6) 創立80周年に向けた取組 卒業生と在校生による実行委員会で推進。「創立80周年記念募金」への協力呼びかけ。同窓生の活動記録集の刊行。ホームカミングデー交流会の実施

役員改選 同窓会ホームページの「同窓会役員等一覧」をご覧ください。

先着で10名様に

同窓会オリジナル

『キャンバストートバッグ』プレゼント
色「ブルー」「ブラック」「グリーン」「カーキ」
から1点選べます

ご希望者は住所・氏名及び「トートバッグ・色」
の希望を次のあて先までご連絡ください

〈郵便の方〉 〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30
日本社会事業大学同窓会

〈FAXの方〉 042-496-3051

〈E-mailの方〉 kouyu@jcsu.ac.jp



2025年度 日本社会事業大学同窓会収支計算書

2026年度 日本社会事業大学同窓会予算

収入の部 (単位:円)		
科 目	2025年度決算額	2026年度予算額
会費収入	4,351,044	4,200,000
入会金収入	0	30,000
雑収入	53,301	50,000
前年度繰越金	3,288,393	2,415,491
合 計	7,692,738	6,695,491

【収支差引額】

7,692,738	—	5,277,247	=	2,415,491
(収入決算額)		(支出決算額)		(翌年度繰越額)
◆ 2025年度 一般運営基金現在高				21,405,124
◆ 2025年度 五味基金現在高				14,930,221

支出の部

科 目	2025年度決算額	2026年度予算額
会議費	156,556	200,000
委員会活動費	92,573	150,000
人件費	509,100	600,000
支部強化費	458,751	700,000
機関誌等発行費	2,780,019	3,000,000
支部出張費	185,539	200,000
通信運搬費	186,551	200,000
学内学生会助成費	0	100,000
ホームページZOOM関係諸費	96,305	200,000
慶弔費	19,415	50,000
国際交流推進費	0	50,000
卒業記念品費	229,130	300,000
母校創立80年指定寄付金支出	150,000	0
新規事業資金積立	300,000	0
事務局活動費	113,308	200,000
予備費	0	745,491
合 計	5,277,247	6,695,491

PHOTO NEWS

顧問・正副会長・ 運営委員等合同会議 /法人・同窓会意見交換会

パートナーシップの推進、リカレント教育の充実について意見交換



“母校・在校生への支援”と“創立80周年記念事業” のため会費納入にご協力を

同窓生の皆様には会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき、同窓会の学生教育支援などへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
同窓会は、これからも在校生と一緒に社大教育と実践をしっかりつないでまいります。
同窓会会長 竹田幹雄



スマートフォン決済。バーコードをアプリでかざすだけ!

今までと同じ振込用紙で郵便局やコンビニでお振り込みされる他、スマートフォン決済ができます。※「スマートフォン(アプリ決済)」をご利用の場合は、振込用紙裏面をご確認の上ご利用ください。



日本社会事業大学
公式シンボルマークの
デザインを募集します

日本社会事業大学は、創立80周年を契機として、未来に向けてさらなる発展をめざします。その新たな歩みを広く発信するとともに、本学に関わる人々が愛着を持ち、長く共用することのできる大学公式シンボルマークを募集します。

募集期間：2026/9/15(火)～10/31(土)

皆さま、ぜひ
ご応募ください!!
詳しくはこちら



お問い合わせ
日本社会事業大学 広報・高大連携室

今だから話せる学生体験とお世話になった方々への感謝を込めて



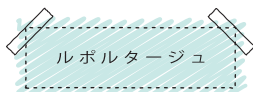
Ota-Koyokai social welfare corporation

社会福祉法人大田幸陽会

<https://ota-koyokai.or.jp/>

羽田空港のある75万都市大田区に根ざし「利用者をも真ん中におく福祉人材の育成に力を入れ、地域との交流を図ってきましたが、2023年の法人設立30周年では、法人理念を「すべての障がい者からすべての人に」広げ、「すべての人に陽光が燦々とそそぎ、だれもが幸せに暮らせる社会の実現」とし、地域共生社会づく

大田幸陽会は、大田区手をつなぐ育成会知的障害児者の親の会が運動の中で作った無認可共同作業所と法外グループホームから1993年(平成5年)に設立された社会福祉法人ですが、私は設立当初から奉職し、今に至っています。



佐藤 功
(さとう いさお)

学部26期
(1986年卒)



1960(昭和35)年6月3日新潟県生まれ。1979年日本社会事業大学社会福祉学部・社会事業科1979年入学86年卒業。川崎市社会福祉事業団勤務、東京都知的障害者育成会勤務を経て、1983年4月社会福祉法人大田幸陽会に主任支援員として入職。2011年4月理事・事務局長就任、法人事業企画調整室長兼務。2017年常務理事就任、2021年専務理事就任。日本障害者虐待防止学会会員(2006年～現在)

大田区で障がい者の支援に関わられています

りへの貢献を続けています。
現在に至るまでの私の経歴と現状について

私が社大に入学した1979年は春の山中湖オリキャンで大学生活がスタートし4年間を文京区白山の男子寮で過ごしました。全社ゼミ(全国学生社会福祉ゼミナールの略称)という自主ゼミでは保育問題を学び、正規ゼミは京極ゼミ、石井ゼミ、古川ゼミでした。大学近くの原宿商店街には「長屋門」「くぼた」2号店などの居酒屋があり、自分は「テリヤキハウス」のアルバイトで生計をたてていました。わたしは原宿社大が好き過ぎて7年間に籍しました。そのため一人一倍思い浮かぶエピソードも多くあります。

男子寮の廃寮問題

男子寮長をしていた時期の閉寮廃寮問題」の話をします。男子寮は江戸時代の武家屋敷守カイ伯爵邸跡と言われているような造りで、一部屋が20畳の部屋もあり、そこに二人で暮らしていました。荒川さんご夫婦が寮の管理人として住み込みされていましたが、寮の運営は学生が自主管理していました。その男子寮が、老朽化による危険建築物に指定されたことから「廃寮が現実の問題となってきました。大学当局からの連絡を受けて寮生大会は荒れました。自主管理を徹底して存続を粘り強く交渉していく方向とハンガーストライキを打って閉寮の問題を学内に伝えていく廃寮反対運動の方向が話し合われ、実際にこの両面を取り組むことになりました。後者の方は二年下の宮本君らが頑張ってくれました。そんな時、当時の石井哲夫教学部長から大学に呼び出され老朽化しているためいつかは廃寮

せざるを得ないことは事実問題であること、しかし直ぐにはないこと、大学の移転問題もあること、その時に学生寮の新設を要望していく予定であること、それまでは安全管理に留意して運営して欲しいこと、という主旨の話がされました。このことは直ちに寮生大会で報告され、ハンガーストライキ等廃寮反対運動は終結することになりました。1981年ごろのことだったと思います。この運動が現在の清瀬の松窓寮の建設にもつながっているのだと思うと感慨深いものがあります。

現在の仕事につながっていく「無認可ベビーホテル調査」

大学2年の1980年、無認可で夜間保育を行う通称ベビーホテルで乳幼児の死亡事故が相次ぎ、田辺敦子先生が実態調査を行うこととなり、保育問題を学ぶ自主サークルの一員であった私も参加しました。調査では、ホテルに子供を託しに来る母親らにインタビューするのですが、「口に「無認可」といっても、ベビーホテルもあれば運動の中から作られた共同保育所もあります。制度化・法内化を目指すものもあれば、制度化せず無認可のまま運営するところもあり、経営者の判断がどこを見て、なを考えているのか、営利と公益に二分する制度は現実には合わないのではないかと、制度化したら運動の初期動機を喪失しないのか、福祉事業の経営とは、などを考え、「社会福祉法人制度の自由と責任について」考える卒論を書くことにしました。

7年目の卒論作成

就職は、石井先生の紹介で川崎市の福祉事業団で働くこととなり、卒論を7年目にして書き上げることとなりました。この時のテーマである「社会福祉法人(格)の自由と責任の範囲」という問題設定は、私が学生時代の真ただ中は「日本型福祉社会論」が「新自由主義に変質していく、最中において、どうやって社会福祉で生きていくかを、法人格」のあり方になぞらえて「自然入」のあり方も考えようとする斬新的なものでした。ピッポの松井君とその仲間の応援を得て提出できましたが、関家先生から「これはひどい」と酷評され、古川先生から「なんで卒業指導に来なかったのか」と叱られ、散々でした。そんなこんなで卒論ではありましたが、あれから障害者福祉で40年働いて現在に至っていますが、結局卒論を障害者福祉の現場から書き直し続けていた40年のように振り返っています。



1979年の松窓寮祭「社寮祭」の企画「寮生の楽しい暮らし」を知ってもらい、寮生を増やし、寮費収入を確保する分科会」です。ネクタイが佐藤。伊藤さんも参加し写っています

今後の活動と抱負などについて

法人理念にも掲げている「だれもが幸せに」を具体的なそれぞれの事例で考えるようにしています。障がい福祉は、人間の「発達・成長」も「高齢化」も「生きがい・意味」についても学べる「生涯福祉」だと感じています。

毎年6月同窓会の「OB・OGとの交流会」に参加させていただいておりますが、やはり実際に在校生の顔を見て声を聞き、呼吸を交わす対面の実施はいいですね。最近、結構当法人の理念や福利厚生の実度感が気になったという応募者が多いこ

社大での経験が未来を支えてくれる

社大が蚕の繭(コクーン)のように学生当時の自分を守ってくれていたと振り返って感謝をしています。古川孝順先生、実習助手の村井さん(当時)には大変お世話になりました。佐藤は元気にやっています。社大での経験・学び・交流関係が、きつと未来の自分を支えてくれると思います。社大に入学し、数多くの方々のお力をいただき、福祉のこころを探しながら、ここまでたどり着きました。気付けば仕事は退職年を迎えましたが、引き続き法人経営に関わらせていただいています。残された時間を全力で駆け抜けたいと思います。



ともうれいことの一つです。清瀬から大田区が未知のエリアのようですので、大田区の社会福祉法人40以上ありますの連携活動や公益的取り組みもお伝えしたいです。

